

ほっと さぼーたー



さわやか体験 手話?

送迎ボランティア 杉澤 精一



送迎ボランティアを始めてまもなく、耳の不自由な方の送迎を依頼されました。車椅子の方、目の不自由な方の送迎は福祉運送の講習会で実習を受けており、リフト付の福祉車両で車椅子に乗ったままの方を送迎したり、目の不自由な方のガイドヘルパー的な介助については一応経験がありました。しかし、このような方の経験は皆無です。コミュニケーションをどうとつたらいいの? 手話は出来ないのに!

担当スタッフのKさんは明るくあっさりとして「送迎車両に社協の文字が入っているから大丈夫ですよ。」と言います。それにしても一言二言、初対面の挨拶や会話があるだろう! ヘルパー2級の講習でも声かけの大切

さを言われていました。

筆談にしようかと決めて、メモ用紙とボールペンを用意しました。前日にになり、インターネットで手話講座を発見!! 時間が無いので、とりあえず簡単な挨拶を練習し、覚えめました。自分の名前もと思いましたが、名前は指文字になり、指文字一覧を見て圧倒され、断念!!

当日は先方の手話の出来ない健聴者への配慮と理解もあり、一夜漬けの手話挨拶と筆談と身振り手振りで、なんとか送迎車に乗ってもらうことができました。

手話通訳の世界とは程遠い出来事ですが、その時先方からもらった一粒の飴の味がさわやかでした。



ピンポーン ――会長のひと言

1月末の一日、「いこいの村潤沼」で茨身協(茨城県身体障害者福祉協議会)の役員研修会に参加しました。テーマは2つあり、「住民参加の介護予防リハビリ体操」と「リハビリテーションにおける障害者の自立支援・就労支援について」でした。

特に関心を引いたのは、最初の研修で、「シルバーリハビリ体操」というのがあり、年齢がいつても、「最期まで人間らしくあるために」・・・歩くための体力維持として、ちよっとした努力が必要で、その有効な方法として「シルバーリハビリ体操」が考案されました。これを広め、指導できる人を県内で養成しているとのことでした。この体操の一部の実技指導がありました。これまでの体操よりも体力維持という目的がはっきりしているようです。講師の巡回した県内各地を見ると、その人たちはなかなか熱心に取り組んでいるそうです。鹿嶋市でも、「シルバーリハビリ体操」のかけ声を聞く時が早くやってくることを期待しています。

(山本安生)